

主な経緯

- 平成11年11月15～19日 フィリピンBIE議長(当時)、ロセルタレスBIE事務局長が
実務協議のために来日
- 平成12年1月14日 11月の実務協議の内容についての新聞報道
- 1月21日 深谷通商産業大臣記者会見「幅広い検討を愛知県に指示」
- 1月25日 深谷通商産業大臣記者会見「BIEの真意を確認のためBIEへ担当者を派遣することを表明」
- 1月27日 深谷通商産業大臣、博覧会会場候補地を視察
- 1月28日 深谷通商産業大臣と中山建設大臣が面談「協力支援することを確認」
- 1月30日 中山建設大臣、博覧会会場候補地を視察
- 2月3日 博覧会協会企画調整会議開催
衆議院予算委員会で小淵総理大臣が「全力をあげて政府がバックアップする」と答弁
- 2月10～11日 通商産業省、愛知県、博覧会協会の職員がBIEと協議(パリ)
- 2月16日 深谷通商産業大臣と神田愛知県知事が面談
「5月のBIE総会での登録承認を見送り、次の同総会の登録承認を目指すことで合意」
- 2月24日 神田愛知県知事と豊田博覧会協会会長が、小淵総理大臣と面談

よりよい博覧会を目指して

国・愛知県・博覧会協会のさらなる連携によって、準備に取り組む

博覧会協会ではこれまで五月末に開かれる博覧会国際事務局(BIE)総会での登録承認を目指してさまざまな準備を進めてきました。二月に改めてBIE側に博覧会の計画などについて説明した結果、BIE側からいくつか意見が示されました。それらの意見を踏まえ、よりよい博覧会の実現を図るため、年末に予定されるBIE総会での登録承認を目指すことになりました。

これまでの経緯

博覧会協会は、昨年十一月に来日したBIE議長、事務局長と実務協議を行いました。さらに、今年の二月に博覧会計画について改めて説明するために、通商産業省、愛知県、博覧会協会の三者の担当者がパリのBIEへ派遣されました。

BIEと意見交換を行い、博覧会成功に向けて、相互に協力していくことを確認しました。

そして、さまざまな状況を勘案した結果、博覧会の登録を延期することになりました。これまでの主な経緯は左表のとおりです。

BIEの意見に対する 博覧会協会の取り組み

二月のBIEとの意見交換の中で、BIEから示された意見に対して、博覧会協会は、通産省および愛知県と連携を図りながら、次のように博覧会の準備に取り組んでいきます。

博覧会のテーマに ふさわしいものに

BIEから、「博覧会の内容は跡地利用も含めて博覧会のテーマにふさわしいものにするのが望ましい」という意見を頂きました。これに対し博覧会協会は、テーマである「自然の叡智」を具現化できるような会場計画の策定に向けて検討しています。

会場計画については さらに さまざまな検討を

博覧会の会場計画はこれまでも検討を重ねてまいりました。今後も、関係方面と調整を図るとともに、環境への負荷の軽減、跡地利用との整合性など、熟度

跡地利用は 将来にわたるもの

博覧会が閉幕した後の跡地利用は、実施国の責任によつて行われますが、BIEはその基本的な枠組みにつき博覧会のテーマにふさわしいものかどうか審査するとしています。

詳細な資金計画を 会場建設費については、

現在のおおむね「八〇〇億円と見込んでいます。厳しい経済情勢や各方面の関係者のご意見をふまえて、魅力的な博覧会が効果的に開催できるよう、さらに詳細な計画を作成していきます。

さまざまな意見をお持ちの人たちとのコミュニケーションを図り理解を

これまでも、地元の各種市民団体や自然保護団体など、さまざまな団体の方々と意思の疎通を図ってきました。

これから、博覧会の計画について、自然保護団体を含め幅広く様々な意見を持った人たちと十分コミュニケーションを図るにより理解を求めることが重

要です。

従来にも増して通産省、愛知県、協会の三者が連携し、各種団体との話し合いをしていきます。

跡地利用は 将来にわたるもの

博覧会が閉幕した後の跡地利用は、実施国の責任によつて行われますが、BIEはその基本的な枠組みにつき博覧会のテーマにふさわしいものかどうか審査するとしています。

これまで跡地利用計画については、愛知県が主体となつて取り組んで行く事業であつたため、博覧会協会としては、必要最小限の関与にとどめてきましたが、今後、企画運営委員の方々からアドバイスをいただきながら、博覧会協会として

も積極的に貢献していきたいと考えております。

EXPO2005の 成功は国際的にも重要

二十一世紀初めての国際博覧会であるEXPO2005。

過去における国際博覧会は、産業博覧会の色彩が強かったのですが、地球温暖化など人類がかかわる環境問題について、世界中で議論がなされている現在、自然と人間のあるべき姿などを実験、検証していくEXPO2005に世界中から注目が集まっています。

EXPO2005の成功は非常に重要であるとの認識のもと、BIEは技術的な支援は惜しまないとしています。

5月BIE総会での 登録承認を目指すことを延期

上記のような取り組みを行うために、通産省、愛知県、博覧会協会が協議の上、これまで今年五月のBIE総会で国際博としての登録承

とにより、時間的な余裕が十分できたわけではありませんが、この時間を有効に使って会場計画の熟度を上げていくとともに、さまざまな団体の方々などの対話を持ちつつ、引き続き、申請準備に取り組み、よりよい博覧会の実現に向けた努力を続けてまいります。

第十一回 企画調整会議

跡地利用に取り組む意見

二月三日に第十一回企画調整会議が開催されました。会議ではテーマサブテーマの見直しの検討(二面参照)や各プロジェクトチームでの検討状況報告がなされました。その他に博覧会の跡地利用に対する取り組みについて、活発な意見が交わされ、次の四点に集約されました。

この博覧会を成功させる意識を強く持つ
保護が開発かの二元論を脱却し、人が手を入れ自然を維持することを訴える
愛知県に対して、何らかの見直しを含めた検討をお願いする
跡地利用計画策定のための議論の場を早急に設ける

第三回 幹部会開催

豊田博覧会協会会長が挨拶



第三回幹部会で挨拶する豊田博覧会協会会長(中央)

BIEへの登録延期を決めた後の二月二十二日に開催されました第三回幹部会において、豊田章一郎博覧会協会会長は、次のように挨拶しました。

「延期により少々ですが時間ができました。この間に二十一世紀最初の博覧会を日本で開催する意義の原点に立ち戻り、博覧会を開催してよかったと言われる素晴らしい博覧会の実現と成功に邁進してまいりたいと存じます。自然保護団体の方々はじめ広く市民の皆様には十分なご理解を頂くために、国、愛知県、協会が一体となつて取り組んでまいります。」

2005年日本国際博覧会

・会場候補地・
愛知県瀬戸市南東部
および隣接地

・開催期間・
2005年3月25日～9月25日

テーマ・サブテーマの見直し検討

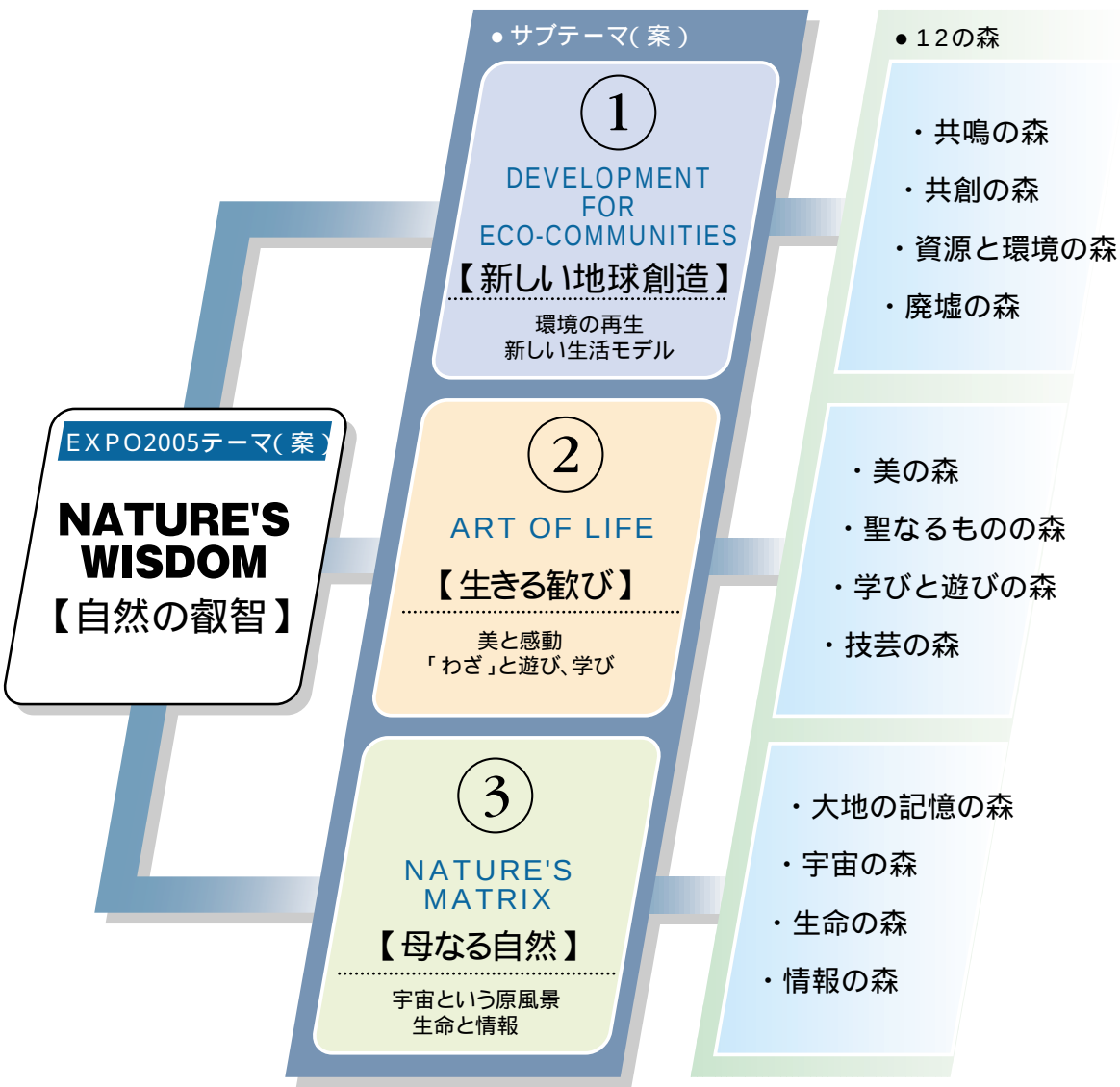
一月三日に開催された企画調整会議で、2005年日本国際博覧会のテーマ・サブテーマを見直し、整理する議論がありました。現在のテーマの二部をサブテーマの第一として、サブテーマを従来の二つから三つにするものです。

テーマ・サブテーマについて

これまでのテーマは、新しい地球創造 自然の叡智^{えい}でしたが、これを分かりやすいものとするために「自然の叡智」としました。また、これまでのテーマの一部の新しい地球創造」をサブテーマの第一としてと検討されました。英語訳は BEYOND DEVELOPMENT がやや先進国に寄っている(S)意見を踏ま

えたうえで、DEVELOPMENT FOR ECO-COMMUNITIES、としました。あとの二つのサブテーマは、「生きる歓び」(ART OF LIFE)と「母なる自然」(NATURE'S MATRIX)を表す(参考ください)。

テーマ・サブテーマと12の森の関係について



EXPO2005
テーマ(案)

NATURE'S WISDOM 自然の叡智

サブテーマ(案)

1 DEVELOPMENT FOR ECO-COMMUNITIES 新しい地球創造

(1) 環境の再生
人間と自然が互いに恩恵を与えあうことのできる21世紀型の産業、文化のあり方を、地球市民の活動によって実践してゆきます。自然と開発をめぐる新しい倫理と構想力を、多様な市民と企業、行政、国際機関の共創と交感を通して探り、新しい地球をリードする具体的なプロジェクトによって示してゆきます。

2 ART OF LIFE 生きる歓び

(1) 美と感動
私たちが美しいものや聖なるものに接したときの感動は、自然や生命の躍動と分かちがたく結びついています。世界各地でおこなわれている芸術・芸能祝祭を

(2) 新しい生活モデル
ライフスタイルの転換により、自然のあり様に学んだ循環型・省エネルギー社会のモデルを展開してゆきます。新しい技術や場を活用し、なるべく無駄を出さない資源の効率性を追求し、ヒトやモノやエネルギーが健全にむすびつけられた生活の方向を展開します。

通して、自然・芸術・聖なるものとの関係へ思いをめぐらし、さまざまな交流と創造を実現します。

(2) 「わざ」と遊び、学び
自然を支配し、制圧するのではなく、自然のなかに潜む豊かな本質を発見し、その教えを現実化します。伝統的な工芸や里山の農業、林業など、近代以前の暮らしから導かれた知恵や工夫を生かし、楽しく遊び、面白く学ぶ感覚で、二十一世紀にふさわしい新たな「わざ」(技術・技芸)を体感します。

3 NATURE'S MATRIX 母なる自然

(1) 宇宙という原風景
私たちが都市化や近代化という波の中で見失っていた自然、宇宙の新しい風景を再発見します。自然宇宙の見えない摂理を学び、地球と宇宙の途方もない歴史をたどりながら、宇宙技術の最先端や太古の地球の記憶を通して、宇宙の時代の、文明のひな形を提示します。

(2) 生命と情報
生命科学と情報科学の最先端の実験により、ネットワーク社会という新しい環境へ命を吹き込みます。多様な要素のからみあう生命世界と情報社会のバランスをとる、それらの関係のなかから、新しい自然観を浮かび上がらせ、人口問題や環境問題などの難問を解決するための指針を示します。

「世界の木霊(こだま)」を感じてみよう

EXPO2005の会場

候補地である愛知青少年公園で、博覧会展示施設実証試験調査」として下表の企画を予定しています。

これは「世界の木霊」と題し、二〇〇五年の博覧会の展示・催事を想定し、実験的に行うもので、異空間を体験していただけるものです。皆様是非お誘い合わせのうえ、ひと足お先に博覧会を体験ください。

日時／三月二十五日(土)～四月九日(日)
午前九時～午後五時
場所／愛知青少年公園愛知郡長久手町熊張(内の愛知県児童総合センター1 他
(財)2005年日本国際博覧会協会他主催)

会場 県道力石・名古屋線(猿投グリーンロード)至豊田
会場 児童総合センター
会場 至名古屋
会場 国際児童年記念館
会場 児童遊園地

名称	場所	概要
神話への旅	アトリウム部 (児童総合センター内)	3色に発光する「光る岩」と無限反射映像による映像のエコで神秘的な雰囲気を感じていただけます。
声の塔	らせんスロープ部 (児童総合センター内)	タワーの入口に「スカントーク」という自分の声を記録する装置を設置し希望者のメッセージを録音出力して、タワーのらせんスロープの各所にはりつけてもらいます。また、このメッセージを読み取る機械を貸し出し、らせんスロープを上りながらメッセージカードに記録してある声を聞き取ることができます。
色彩コラージュ劇場	テント部 (国際児童年記念館中庭)	観客の出す声により、ある一定法則で所定のカラーが選ばれその色のテーマに基づいた映像がパリエーション豊かに展開されます。
木霊の森	森林部 (児童遊園地内展望台)	サウンドによるバーチャルオリエンテーリング観客が森のなかのルートを散策すると、ある特定ポイントやルートに仕掛けられたトリガーによって立体音場システムが作動して、サウンドが立体的に駆けめぐります。
分身カメラ	展望台及び周辺部 (児童総合センター展望フロア及び周辺部分)	ヒューマンリモートカメラ観客に小型のカメラ、マイク、ヘッドフォン等の通信機器を身につけてもらい、展望台にいる別の観客と話をしたり映像や音声を送る。

春の神宮外苑で領域型展示を体験

三月二日から四日まで、東京・青山の神宮外苑・いちよう並木界隈で領域型展示



HMDを通して映像を見る参加者に、屋外をそのままの状態で見せる体験空間として活用する展示手法です。一般の方々にヘッドマウントディスプレイ(HMD)というゴーグルのような映像表示装置やパソコンを装着していただき、実際にコースを歩いてもらいました。歩いている場所によって違った映像や音声がHMDに映し出されるという新しい展示手法を楽しんでいただきました。

環境プロジェクトチーム・ゼロエミッション部会では、ゼロエミッションという循環型社会を実現していくためには、社会のしくみやライフスタイルの新たな創造が必要になってくるとの観点から、そのきっかけづくりのひとつとして、ゼロエミッションEXPOルール(以下「EXPOルール」に略)の検討を進めています。このルールは、ゼロエミッションに関して、関係者すべての参加によりつくり上げ、運用を通じて改善し、楽しみながら活用するという全く新しい考え方(「共創モデル」)を取り入れていきたいと考えています。そのため、現在の検討状況をお知らせすることにいたしました。今後、多くの方々からのご意見をいただきながら、さらに充実したEXPOルールを皆さんと共に創り上げて参りたいと考えております。



EXPO ゼロエミッション ルール

ゼロエミッションとは?

生活の質を犠牲にすることなく、関係者の連携により廃棄物を資源や再生品として活用するとともに、資源・エネルギーを効率的に使っていくこと、さらには有害や有害の可能性のある物質の使用をやめることなど、環境へ与える負荷をできるだけ少なくしていくことです。

EXPOルールとは?

誰かが決めたルールを参加者が守るというのがこれまでのルール。EXPOルールは、「共創」の思想に基づく、全く新しい考え方によるルールづくりをめざしています。みんなで考え、みんなで創り上げ、博覧会の中で楽しみながらゼロエミッションに取り組もうとするものです。

ルールのめざすこと

博覧会を通じて、ゼロエミッションに関連する新しい技術や生活スタイルを、参加する人全員が体験することで日常の生活を考え直すきっかけとなることをめざします。

プレイヤーとサポーター

たとえば、博覧会では、来場者をプレイヤー、出展者や営業者、博覧会協会や事務局関係者などをサポーターとして考えたらどうでしょう。会場では、プレイヤーとサポーターがお互いに影響しあうことでよりよいしくみにつなげます。

ルールの期間

博覧会の開催期間だけでなく、会期前や会期後の工事などにも適用されます。

たとえば、「エコバリューをためると入れるパビリオン」はどうですか?

こんなパビリオンがあってもいいと思いませんか?
博覧会では、楽しみながら環境を考えるという「エコテイメント(ECOLOGYとENTERTAINMENTを合わせて創った言葉)」の要素をいかした取り組みを進めます。「ゼロエミッションって難しい」と感じている人も、楽しいしくみがあれば気軽に参加できるかも。

EV(エコバリュー)とは

EVとは、エコバリューの略で、ゼロエミッションの取り組みをどれだけ用意し、実践し、体験したかを示すポイント(点数)です。獲得したポイントにあわせて、楽しい特典を得ることができるようなしくみを考えていきます。



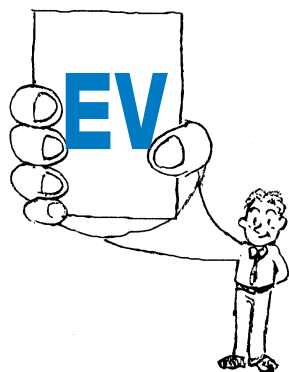
基本ルールは、ゼロエミッションを実践・体験し
そして、どんどん周りに広げていくことです。



今回制作したパンフレットを希望者に差し上げます。博覧会協会環境グループゼロエミッション部会担当まで。
TEL052-569-2153

よりよいルールづくりに
向けて、あなたのアイデア、
たくさんください。

ご意見は葉書またはホームページ
(<http://www.expo2005.or.jp> EXPOの耳)でお待ちしています。
いただいたご意見は、ゼロエミッション部会で整理検討の上、EXPOルールVer.2に反映させていただきます。



「EXPO2005 環境への取り組み」を発行しました

博覧会協会では、このたび、現時点までの環境への取り組みをまとめたパンフレット「EXPO2005環境への取り組み」を作成いたしました。

このパンフレットは日本語版に加え英語版も作成いたしました。

内容は、環境影響評価への取り組み、エネルギー・システム、循環型社会、人との新たな関係など、環境への取り組み全般を、写真を多く用い、読みやすく紹介しています。

なお、ご希望の方には配布致しますので、環境グループ・電話〇五二五六九一一五二までお問い合わせください。



環境影響評価書についての 通商産業大臣意見だされる

博覧会協会は、本年一月二十一日付けで、環境影響評価書についての通商産業大臣意見をいただきました。

評価書は、昨年二月の準備書の作成以降、環境影響のより一層の低減を図るため、これまでの瀬戸市海上地区に加え、愛知青少年公園等も活用する計画を検討し、昨年十月にとりまとめたものです。

大臣意見の中では、これまでの環境影響評価の進め

方や環境影響の回避・低減に向けた対応について、更には愛知青少年公園なども活用する方向性について、一定の評価をいただき、次のステップである評価書の修正作業に進むよう指示がありました。

今後、大臣意見に沿って検討を加え、現在継続して実施している青少年公園地区などの現況調査の結果および会場計画の進捗状況も考慮し、修正評価書を作成してまいります。

T O P I C S

EXPO 2005 トピックス



岡村先生から「土」の講義を受けるエコスクールの子どもたち

立ちを調べました。このスクールは本年9月までの間、宿泊を含め全五回行われ、里山にある数々の不思議、楽

四月十六日(日)は、瀬戸へ集合。楽しいコーナーが盛り沢山のイベント「EXPO2005スプリングフェスタ」が開催されます。名古屋出身のタレント加藤晴彦さんのトークショー(申し込み締切三月二十四日(金)当日消印有効、往復はがきで)や映画の上映その他催し物がいっぱいです。是非お出かけください。



時間・内容
十時から各種団体の出展エリア、十三時から人気フアミリアニメ映画上映、十五時からEXPOトークショー(事前申込み必要)。

第一回のテーマは、落ち葉のゆくえ。開校式の後、参加者約五十人が八名の大学生リーダーのもと四つの班に分かれ、落ち葉観察と色隠しゲームを行いました。午後からは全員で森の一画約三百mの落ち葉かき体験し、ビートルアパート(昆虫のすみか)は落ち葉でいっぱい…。その後、名古屋市立大学岡村穰先生による「土」の講義を受け、森の土の温度を計ったり、表土を掘ったりして土の成り

これは体験的な里山環境学習の実践により、こどもたち一人ひとりが身近な自然の多様性と魅力にふれ、生きる知恵や五感を育むことを目的としています。

「里山エコスクールin中山の森」が二月二十日瀬戸市中山町の中山の森においてはしまりました。

これは体験的な里山環境学習の実践により、こどもたち一人ひとりが身近な自然の多様性と魅力にふれ、生きる知恵や五感を育むことを目的としています。

「里山エコスクール」が開校されました

「2005年日本国際博覧会推進瀬戸地区協議会主催」

EXPO2005の動き

(1999年12月～2000年3月)

- 1999年
12月14日 第2回幹部会を開催
- 2000年
1月 9日 フェスタEXPO in 豊田2000を実施
1月13日 博覧会協会カレンダーが日本マーケティング協会賞を受賞、表彰式が実施される
1月21日 環境影響評価書に対する通産大臣意見が出される
2月 3日 第11回企画調整会議を開催
2月10～11日 ... 通産省、愛知県、博覧会協会の職員がBIEと協議(パリ)
2月10日 第7回環境影響評価アドバイザー会議開催
2月11日 第6回オオタカ調査検討会を開催
2月16日 深谷通産大臣と神田愛知県知事が面談、5月のBIE総会での登録承認を目指すことを延期することで合意
2月20日 里山エコスクール in 中山の森を実施
2月22日 第3回幹部会を開催
2月24日 神田愛知県知事、豊田博覧会協会会長が小淵総理大臣と面談
3月 5日 第14回シンポジウムマラソンを実施
3月12日 大阪万博30周年記念～春のABCラジオエキスポ2000実施

EXPO 2005クイズ

ゼロエミッションという循環型社会を実現していくためのきっかけとなるルールとして、ゼロエミッションEXPO。。。の検討を進めています。この。。。に入る文字は何でしょうか。

答えの分かった方は、はがきに クイズの答え 住所 氏名 年齢 電話番号 アンケートの回答 - を記入し、次のあて先までどうぞ。

[アンケート]

Q1「EXPO2005だより」の入手先

Q2「EXPO2005だより」についての感想、要望

- あて先 / 〒450-0002 名古屋市中村区名駅三丁目 15-1 名古屋ダイヤビルディング2号館4階 (財)2005年日本国際博覧会協会「EXPO2005 クイズ」係
- 締め切り / 平成12年4月5日(水) 当日消印有効
抽選で30名の方にブルガリア共和国発行記念切手をプレゼントします(発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます)

しみを季節の移り変わりとともに楽しく体感していきます。(博覧会協会主催)

「SF作家、人間とロボットの未来を語る」と題したトークショーで熱い思いを語りました。また、地元工業高校の生徒が作ったロボットの実演では、ユニークなロボットが勢揃いし、参加者の目を楽しませました。

去る一月九日に豊田市民文化会館大ホールで、フェスタEXPOin豊田2000が開催されました。豊田市の二十一世紀ビジョンの展開に大きな意味をもつEXPO2005を市民の方に認識していただく貴重な機会でした。

「第十四回2005年日本国際博覧会シンポジウムマラソン」が三月五日に開催されました。

「ロボットを通じて二十一世紀を感じました」

「ロボットを通じて二十一世紀を感じました」

「SF作家、人間とロボットの未来を語る」と題したトークショーで熱い思いを語りました。また、地元工業高校の生徒が作ったロボットの実演では、ユニークなロボットが勢揃いし、参加者の目を楽しませました。

去る一月九日に豊田市民文化会館大ホールで、フェスタEXPOin豊田2000が開催されました。豊田市の二十一世紀ビジョンの展開に大きな意味をもつEXPO2005を市民の方に認識していただく貴重な機会でした。

「豊田市で博覧会の応援イベント開催」

「豊田市で博覧会の応援イベント開催」

「豊田市で博覧会の応援イベント開催」

「豊田市で博覧会の応援イベント開催」



フェスタEXPOin豊田



記念切手

この切手をEXPO2005クイズにお答えいただいた方のうち三十名様に差し上げます。左側のクイズ欄をご覧ください。

ブルガリア共和国で、EXPO2005を支援する記念切手が昨年十二月に発行されました。発行枚数は三十万枚、額面は〇・ハレフ(レフ)、日本円で約十円です。

「EXPO2005記念切手が発行されました」

「EXPO2005記念切手が発行されました」

EXPO2005のシンボルマークいよいよデビュー!ホームページもリニューアル!

博覧会協会では、既報のとおりEXPO2005シンボルマーク制定作業を進めており、近々公表を予定しています。これまで誘致の際に制作されたマークを作者・高田雄吉様のご厚意により、使用してきました。作者の高田様、長年ご愛用いただきまして皆様に厚くお礼申し上げます。次号より、新しいマークが登場しますが、誘致マーク同様お引き立てください。また、シンボルマークの発表の後に、博覧会協会のホームページが新しくなります。どうぞ、ご覧ください。

URLは、<http://www.expo2005.or.jp>です。

発行 財団法人2005年日本国際博覧会協会

発行日 2000年(平成12年)3月17日 編集責任者 楠本 孝 部数 130,000部

名古屋事務所 〒450-0002 名古屋市中村区名駅三丁目15-1 名古屋ダイヤビルディング2号館4階 TEL 052-569-2005 FAX 052-569-2100

東京事務所 〒100-0011 東京都千代田区内幸町二丁目1-1 飯野ビル7階 TEL 03-5521-1601 FAX 03-5521-1607

「EXPOの耳」あて先

インターネット・ホームページアドレス

<http://www.expo2005.or.jp>

ご意見をお待ちしております。

「EXPOの耳」Eメールアドレス

voicebox@expo2005.or.jp

「EXPO2005だより」は、次号以降、さらに内容を充実させるため紙面を刷新します。ご期待ください。